

**編集部** 滑稽俳句を始められたきっかけは？

**桑田** 五年程前に、友人に誘われて参加した八木会長主宰の句会です。とても楽しんで、「こんなにも心が踊らされる世界があったのか」と感動しました。その場で滑稽俳句と句会、そして八木会長の虜となりました。

**編集部** 滑稽俳句の魅力とは？

**桑田** 私は自分の世界に入り込み過ぎたり、物事を四角四面に捉え過ぎる傾向があるのですが、滑稽俳句とその句会は、それらを直してくれます。「座の文学」である俳句、特に「滑稽俳句」は、物事を柔軟に多方面から考える力に加えて、他者に伝える力もつくところが良いですね。

**編集部** 俳句における「滑稽」とは？

**桑田** コロンブスの卵のようなものだと思います。つまり、皆、同じ世界を見ているのですが、違う角度から世界を捉え、驚きを与えることができなければなりません。そして更に、その表出が他者を納得させるものであって初めて、「コロンブスの卵」を立てることが出来るのです。

**編集部** 滑稽俳句を続けて良かった事は？

**桑田** 性格が明るく柔軟になったことと、俳句がどんどん好きになっていくことです。

**編集部** 滑稽俳句を作るコツは何でしょうか。

**桑田** 多作すること。時間を置いてその俳句を見直してみる。一つの俳句の改作にこだわり過ぎたと感じた時は、最初に作った原句に立ち返ることでしょうか。

#### 【代表句】

靴下の不揃い不揃い梅雨の入り  
不可思議な物ほど欲しき熱帯魚  
馬の背の蠅の面にも秋の色  
おしゃべりを数珠繋ぎして柿簾  
枝々に満ちてゆく星白梅は